

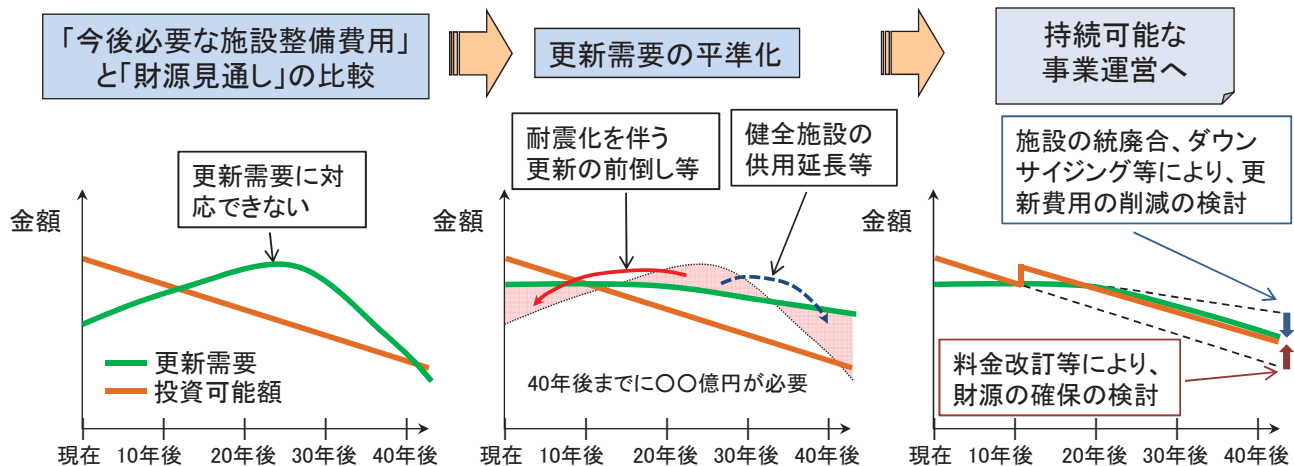
水道事業におけるアセットマネジメント

長期的な視点での持続可能な水道施設の管理運営には、
アセットマネジメントが必要不可欠

●水道事業におけるアセットマネジメントとは・・・

→ 水道施設による給水サービスを継続していくために必要な補修、更新といった施設管理に必要な費用と、そのための財源を算定し、長期的視点に立って経営していくことである。

アセットマネジメント実践



厚生労働省のアセットマネジメントに関する取り組み

- 厚生労働省は、平成21年7月7日に「水道事業におけるアセットマネジメント(資産管理)に関する手引き」を作成した。
- 中小の水道事業者においては、手引きが詳しいためすぐに実践するには活用しにくい面もあると考えられることから、アセットマネジメント実践のための簡易支援ツールを作成し、平成25年6月に公表した。
- 平成25年度の全体の実施率は平成24年から1年で21.9ポイント上昇した(395事業者が簡易支援ツールを使用してアセットマネジメントの実施、検討を行った)。

アセットマネジメントの実施状況

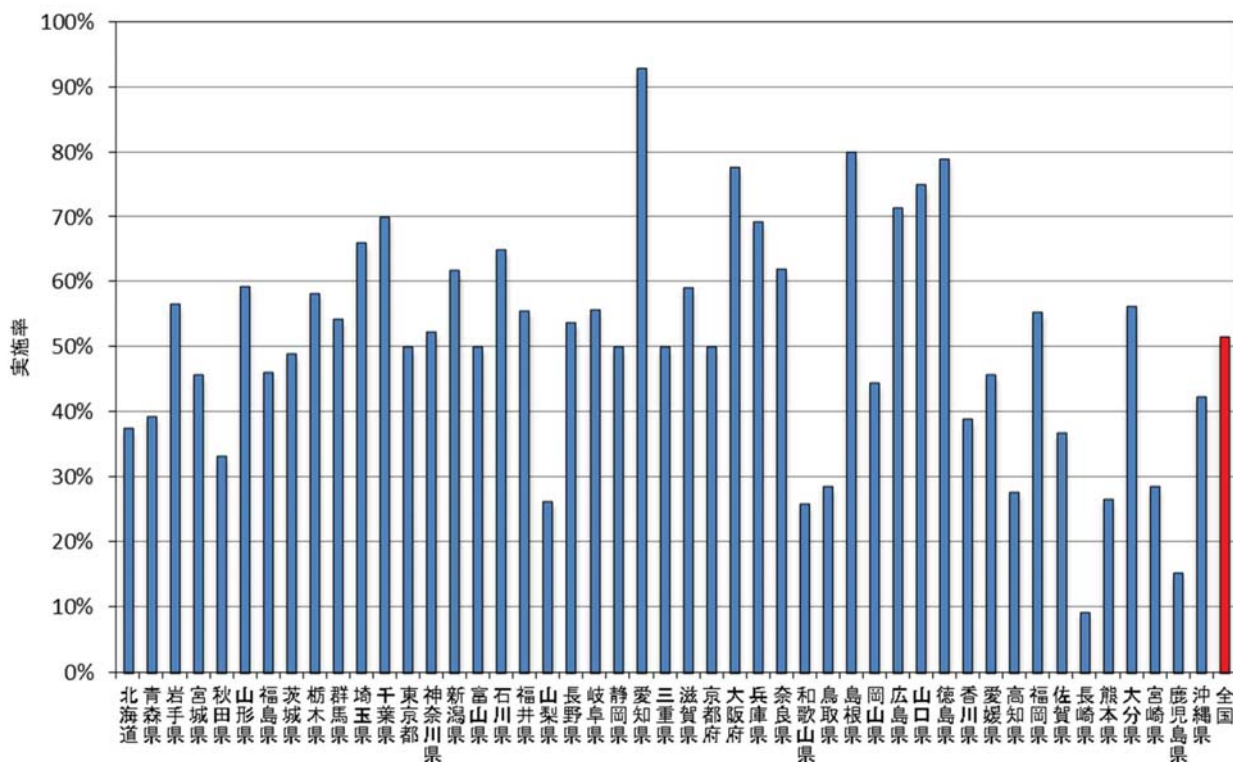
(単位:事業者数)

計画給水人口		5万人未満	5万人～10万人	10万人～25万人	25万人～50万人	50万人以上	用水供給事業	合計
H24	割合	12.5%	46.4%	66.2%	72.1%	84.0%	67.0%	29.4%
H25	調査事業者数	958	209	144	57	26	92	1,486
	実施事業者数	348	145	126	53	26	69	767
	割合	36.3%	69.4%	87.5%	93.0%	100%	75.0%	51.6%
H24からH25への割合の伸び(ポイント)		23.8	23.0	21.3	20.9	16.0	8.0	22.2

(注)実施事業者数には実施中の事業者も含まれる

(平成26年1月末時点)

都道府県別アセットマネジメントの実施状況(H25)



注) 実施率には実施中も含まれる

(平成26年1月末時点)

簡易支援ツール

簡易支援ツールとは・・・

■最小限の手間でアセットマネジメントの実施が可能

→ 建設改良費の経年実績と最新年度の決算のみでアセットマネジメントの検討ができる

■施設の更新費用に関して容易にレベルアップが可能

→ 施設の能力から更新費用を算出し、施設毎の更新費用として容易に整理することができる

簡易支援ツールに期待すること

●まずはアセットマネジメントに着手することで、 今のままでいったら将来どうなるかを知ってほしい。

- これまでと同じ水道料金でいいのか？
- これまでと同じ規模の施設でいいのか？ダウンサイジングは必要ないのか？
- これまでと同じ更新量でいいのか？
- 周辺の水道事業者との連携(広域化)は必要ないか？

平成25年度の成果報告

- 簡易支援ツールを使用した水道事業の広域化の効果を算定するマニュアルを策定した。これにより、水道事業者等が自ら広域化の効果を簡単に算出できる。
- 簡易支援ツールのステップ3においては、施設毎に更新基準を設定することになる。しかし、中小規模の水道事業者にとってはその検討は容易ではない。そこで、中小規模の事業者を対象に、施設の更新実績を踏まえた更新基準の設定例について策定した。
- 水道事業の現状等に関する利用者への情報提供に関して、中長期的視点にたって、水道施設を維持管理していく費用と財源の見通しについて、利用者へ客観的でわかりやすく情報提供するための項目(案)を策定した。



これらについては、H25年度末までに水道事業者等へ配布する予定である